

B—7 絹の洗たくに関する研究（第10報） すすぎ洗い条件と洗剤の吸着力との関係

蚕糸試験場 皆川 基
○飯坂 久子
学習院女子短大 斎藤 道香

1. 絹製品の洗たく時には既報のごとく、黄褐変事故や風合などの変化が起こりやすいので、洗剤が余分に残ることは好ましくない。本報ではすすぎ洗いの条件と絹布に残存する活性剤量との関係を明らかにすることを目的とした。

2. 各種の活性剤、市販洗剤によって洗浄した絹布（フラットクレープ）を100%に絞り、すすぎ液の温度ならびに回数と活性剤の吸着量（1gの絹繊維に吸着されている活性剤量を重量法で表わした）との関係を求めた。

3. (i)すすぎ液の温度は一般に高いほど活性剤が除去されやすくなるが、アルキルベンゼンスルホン酸ソーダを用いた場合には比較的高温の液ですすぎ洗いを行なわねばならない。

(ii)すすぎ洗いの回数は一般に多いほど活性剤がよく除去され、すすぎ液の温度が高いほどそのすすぎ洗いの回数を減らすことができる。

(iii)洗浄処理温度が高くなるほど一般に活性剤の吸着量は増加し、すすぎ洗いで除去しにくくなる傾向があり、特にアルキルベンゼンスルホン酸ソーダ塩、ポリオキシエチレンアルキルフェノールエーテル、アルキロールアミドなどにその傾向が顕著に認められた。